

ガガブタ

Nymphoides indica (L.) Kuntze

被子植物・双子葉類
ミツガシワ科

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	絶滅
環境省(2014)	準絶滅危惧
環境省(2007)	準絶滅危惧

変更理由	埋土種子集団から復活したと考えられる集団が確認された。ただし、1つの池の限られた範囲のみ自生する。
------	---

適用基準	定量ACD
------	-------

主な危険要因	池沼開発、土地造成 過去に池沼開発や水質汚染によって大幅に減少し、絶滅したと考えられていた。現在の自生地も池沼開発や護岸工事が懸念される。
--------	--

総産地数	3
現存	1
不明	0
絶滅	2

特記事項	遺伝子多型から、複数の種子に由来する株が復活している。ただし、1つの池の中に分布が限られ、生育基盤は極めて脆弱と考えざるを得ない。
------	---

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	
東部	○

コホタルイ

Schoenoplectus komarovii (Roshev.) Soják

被子植物・単子葉類
カヤツリグサ科

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	絶滅
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	1地点で埋土種子集団から一度復活したが、遷移進行によって2017年には生育が確認できなくなっている。
------	--

適用基準	定量D
------	-----

主な危険要因	自然遷移 裸地に先駆的に出現する種のため、自然状態では長続きしない場合がある。
--------	--

総産地数	1
現存	0
不明	1
絶滅	0

特記事項	遷移初期に出現する種のため、株のままの保存は難しい。ただし、近年発生した地点では埋土種子集団を形成していると考えられる。土壌の保全が有効な保存方法の一つと考えられる。
------	---

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	
東部	△

ヤマトホシクサ

Eriocaulon japonicum Koern.

被子植物・単子葉類
ホシクサ科

今回評価	除外
群馬県(2012)	絶滅
環境省(2014)	絶滅危惧II類
環境省(2007)	絶滅危惧II類

変更理由	本種の根拠となった標本を調査した結果、ニッポンイヌノヒゲに同定された。本種はもともと群馬県に分布しなかったと判断される。
------	--

適用基準	その他
------	-----

主な危険要因	
--------	--

総産地数	-
現存	-
不明	-
絶滅	-

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	
東部	

タタラカンガレイ

被子植物・単子葉類
カヤツリグサ科

Schoenoplectus mucronatus (L.) Palla var. *tataranus* (Honda) K. Kohno, Iokawa et Daigobo

今回評価	絶滅危惧IB類
群馬県(2012)	絶滅危惧IA類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	6地点から約150株が記録されたが、これ以外に計数されなかった集団も存在する。2012年の評価では株数を過小評価したと考えられる。
------	---

適用基準	定量ACD
------	-------

主な危険要因	池沼開発、管理放棄、湿地開発 平野部の池沼に依存する植物のため、開発の影響を受けやすい。また、遷移初期に出現するため、一時的に大量に出現しても、消失することが多い。
--------	---

総産地数	10
現存	6
不明	4
絶滅	0

特記事項	今回の調査では大規模な集団が確認された地点のあったが、遷移とともに急減することが多い。株数の変動が大きい生育地が多く、株数や増減の把握が難しい種だが、自生域では近年平均して総計数10~100株で推移していると考えられる。
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	
東部	○

セトガヤ

被子植物・単子葉類
イネ科

Alopecurus japonicus Steud.

今回評価	絶滅危惧II類
群馬県(2012)	絶滅危惧IA類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	3地点から確認され、うち2地点では大規模な集団である。農耕地やその周辺に生育する種のため、圃場整備や除草剤の影響を受けやすい。
------	---

適用基準	定量C
------	-----

主な危険要因	管理放棄、農薬汚染、池沼開発
--------	----------------

総産地数	4
現存	3
不明	1
絶滅	0

特記事項	東部地域に加え、中部地域からも大規模な集団が確認された。さらに、注目されない種のため、認識されていない集団があると考えられる。
------	---

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	○
西部	
東部	○

イブキノモソモ

被子植物・単子葉類
イネ科

Poa radula Franch. et Sav.

今回評価	絶滅危惧II類
群馬県(2012)	絶滅危惧IA類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	近年尾瀬地域で再発見され、別の山域でも発見された。両地域の3カ所から600株以上が記録されている。
------	---

適用基準	定量
------	----

主な危険要因	その他(自然災害)
--------	-----------

総産地数	3
現存	3
不明	0
絶滅	0

特記事項	尾瀬では従来記録がない地点から確認され、その場所は木道や山小屋などの影響はない。また、ニホンジカの食害の影響はないようである。
------	---

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	
中部	
西部	
東部	

ニガカシュウ

Dioscorea bulbifera L.

被子植物・単子葉類
ヤマノイモ科

今回評価	除外
群馬県(2012)	絶滅危惧IA類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	近年北関東に分布が北上し、分布拡大中の種と判断される。近年東部地域での記録が増加しているため、絶滅のおそれがある種とは言えない。
------	--

適用基準	定性
------	----

主な危険要因	
--------	--

総産地数	-
現存	-
不明	-
絶滅	-

特記事項	2012年レッドデータブック改訂時にリストから除外されたウラジロ、ハカタシダなどの暖地性のシダと同じ理由で今回除外する。
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	
東部	○

エンコウソウ

Caltha palustris L. var. *enkoso* H. Hara

被子植物・双子葉類
キンポウゲ科

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	絶滅危惧IB類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	2カ所のみで生育が確認され、うち1カ所には複数地点に生育する。現在の生育地では開発とともに、交雑による純粋な系統の減少が危惧される。
------	--

適用基準	定量C
------	-----

主な危険要因	湿地開発、土地造成、外来種競合・交雑 生育地に隣接して変種のリュウキンカが植栽されており、交雑が懸念される状態である。
--------	--

総産地数	8
現存	2
不明	4
絶滅	2

特記事項	吾妻地域にも数カ所自生域があったが、今回の調査では確認できなかった。いずれの自生地でも、小河川への土砂や除草剤の流入によって壊滅的と考えられる。
------	--

県内の分布状況	
利根	△
吾妻	△
中部	○
西部	
東部	

ミヤマハンショウヅル

Clematis ochotensis (Pall.) Poir. var. *japonica* Nakai

被子植物・双子葉類
キンポウゲ科

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	絶滅危惧IB類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	4カ所で生育が確認されたが、いずれの地点でも30株未満である。加えて園芸採取とニホンジカによる減少が続いていると判断される。
------	--

適用基準	定量D
------	-----

主な危険要因	動物食害、自然遷移、園芸採取 2012年レッドデータブック改訂時にニホンジカが侵入していなかった地域でも今回食痕が確認された。
--------	--

総産地数	8
現存	4
不明	2
絶滅	2

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	○
中部	×
西部	
東部	△

タコノアシ

Penthorum chinense Pursh

被子植物・双子葉類
ユキノシタ科

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	絶滅危惧IB類
環境省(2014)	準絶滅危惧
環境省(2007)	準絶滅危惧

変更理由	現存する生育地は3カ所のみである。うち1地点では生育状況は良好であるが、先駆性の種であるため、遷移進行とともに急に衰退することが多い。
------	---

適用基準	定量ACD
------	-------

主な危険要因	河川開発、池沼開発、自然遷移
--------	----------------

総産地数	10
現存	3
不明	0
絶滅	7

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	×
東部	○

チョウジソウ

Amsonia elliptica (Thunb.) Roem. et Schult.

被子植物・双子葉類
キョウチクトウ科

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	絶滅危惧IB類
環境省(2014)	準絶滅危惧
環境省(2007)	準絶滅危惧

変更理由	現在残存する生育地は1点のみになった。加えて工事による影響回避のための保全対策に依存して生育している状況である。
------	--

適用基準	定量C
------	-----

主な危険要因	河川開発、管理放棄、外来種競合・交雑
--------	--------------------

総産地数	7
現存	1
不明	1
絶滅	5

特記事項	直接的には河川敷での工事によって危機的な状況である。工事後もオオブタクサやセイタカアワダチソウなどの外来種の侵入、遷移進行が想定される。現在保全対策に依存して生存している状況である。
------	---

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	
東部	○

ゴマギ

Viburnum sieboldii Miq. var. *sieboldii*

被子植物・双子葉類
スイカズラ科

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	絶滅危惧IB類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	今回の調査期間に過去の生育地のうち1地点でしか確認できなかった。河川工事の影響により衰退傾向にあり、河畔林の遷移進行によって更新できない状況にある。
------	--

適用基準	定量ACD
------	-------

主な危険要因	河川開発、森林伐採、自然遷移
--------	----------------

総産地数	4
現存	1
不明	0
絶滅	1

特記事項	過去の標本から、板倉町にも分布していたことが判明したが、現存しないことが確認された。鳥散布種子をつける種であり、現在の生育地点での更新を図るとともに、定着可能な河畔林・湿地林の整備・育成が急務である。
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	
東部	○

バアソブ

Codonopsis ussuriensis (Rupr. et Maxim.) Hemsl.

被子植物・双子葉類
キキョウ科

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	絶滅危惧IB類
環境省(2014)	絶滅危惧II類
環境省(2007)	絶滅危惧II類

変更理由	2地点で絶滅が確認され、残る生育地は2地点のみで生育株数は100株ほど。1地点で衰退傾向にある。残る地点も草地の刈り取りに依存している状態である。
------	---

適用基準	定量C
------	-----

主な危険要因	管理放棄、草地開発、その他(植林)
--------	-------------------

総産地数	7
現存	2
不明	3
絶滅	2

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	△
吾妻	△
中部	×
西部	○
東部	○

ヒメシオン

Aster fastigiatus Fisch.

被子植物・双子葉類
キク科

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	絶滅危惧IB類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	2カ所で生育が確認された。最大の生育地は放棄水田のヤナギ林への遷移に加えてニホンジカとイノシシの食害により発見当時(2001年)に比べて95%以上減少した。
------	--

適用基準	定量A
------	-----

主な危険要因	自然遷移、動物食害、湿地開発 過去の最大の生育地には湿地性の種は現存するが本種は電柵やカヤツリグサ科大型種周辺にしかない。
--------	--

総産地数	9
現存	2
不明	2
絶滅	5

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	×
吾妻	○
中部	×
西部	
東部	○

フジバカマ

Eupatorium japonicum Thunb. ex Murray

被子植物・双子葉類
キク科

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	絶滅危惧IB類
環境省(2014)	準絶滅危惧
環境省(2007)	準絶滅危惧

変更理由	5地点に生育が確認されているが、中部地域では2014年に絶滅した。大部分の現存する生育地も周辺環境の管理に依存している。
------	--

適用基準	定量ACD
------	-------

主な危険要因	河川開発、管理放棄、外来種競合・交雑 護岸工事や堤防工事によって失われることが多い。
--------	---

総産地数	8
現存	5
不明	0
絶滅	3

特記事項	大規模な産地は環境保全とモニタリングの事業によって維持されている。また、湿地環境を維持するビオトープ的な管理により定着した事例もある。一方で、河川工事による産地の喪失や遷移進行による衰退も目立っている。
------	---

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	×
西部	○
東部	○

コウガイモ

被子植物・単子葉類
トチカガミ科

Vallisneria denseserrulata (Makino) Makino

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	絶滅危惧IB類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	3地点で新たに絶滅し、現在2地点で小規模な集団が確認されるのみ。
------	----------------------------------

適用基準	定量ACD
------	-------

主な危険要因	河川開発、農薬汚染、その他(除草) 圃場整備に伴う水路改修により大規模な集団が消失した。
--------	---

総産地数	7
現存	2
不明	0
絶滅	5

特記事項	殖芽によりしばしば大規模な集団を形成する種。河川や水路に生えるため、種子や切れ藻の発生源となる上流側の集団を確保することが重要。
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	
東部	○

ミズアオイ

被子植物・単子葉類
ミズアオイ科

Monochoria korsakowii Regel et Maack

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	絶滅危惧IB類
環境省(2014)	準絶滅危惧
環境省(2007)	準絶滅危惧

変更理由	2012年レッドデータブック調査時点で大量に出現した地点も現在発生が確認できない。遷移初期に出現する種のため、株数は極めて不安定に変動する。
------	--

適用基準	定性
------	----

主な危険要因	土地造成、農薬汚染、池沼開発
--------	----------------

総産地数	8
現存	0
不明	3
絶滅	5

特記事項	過去にも表土の攪乱や浚渫直後に突然大発生することがあった。近年発生した地点では種子が生存し、攪乱によって発生する可能性が高い。
------	---

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	
東部	△

アリマシノ

被子植物・単子葉類
イネ科

Sasaella kogasensis (Nakai) Nakai ex Koidz. var. *yoshinoi* (Koidz.) Sad. Suzuki

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	絶滅危惧IB類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	2012年レッドデータブック改訂時記録した集団は絶滅していた。別の集団が発見されたが、小規模である。
------	--

適用基準	定量ACD
------	-------

主な危険要因	森林伐採、土地造成
--------	-----------

総産地数	2
現存	1
不明	0
絶滅	1

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	
東部	○

クグスゲ

Carex pseudocyperus L.

被子植物・单子葉類
カヤツリグサ科

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	絶滅危惧IB類
環境省(2014)	絶滅危惧IB類
環境省(2007)	絶滅危惧IB類

変更理由	3集団中2集団で再確認できたが、うち1集団では池の水位上昇により数株が残るだけの状態である。
------	--

適用基準	定量ACD
------	-------

主な危険要因	自然遷移、その他(水位変動)
--------	----------------

総産地数	3
現存	2
不明	0
絶滅	1

特記事項	すべての生育地が私有地にある。今後も生育できるか否かは管理にかかっていると看しても過言ではない。
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	○
中部	
西部	
東部	

クモマシバスゲ

Carex subumbellata Meinsh. var. *verecunda* Ohwi

被子植物・单子葉類
カヤツリグサ科

今回評価	絶滅危惧II類
群馬県(2012)	絶滅危惧IB類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	2山域の7カ所から約250株が確認された。調査困難な場所にもより多くの株が生育していると考えられる。一方で休憩や食事のために株の踏みつけが深刻な地点もある。
------	--

適用基準	定量ACD
------	-------

主な危険要因	踏みつけ、特殊分布
--------	-----------

総産地数	7
現存	7
不明	0
絶滅	0

特記事項	芝生のような草姿をしているため、すれ違いのほか休憩場所となるポイントでは何の抵抗もなく踏みつけられている。
------	---

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	
中部	
西部	
東部	

マツカサススキ

Scirpus mitsukurianus Makino

被子植物・单子葉類
カヤツリグサ科

今回評価	絶滅危惧II類
群馬県(2012)	絶滅危惧IB類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	4地点から約380株が記録されたが、これ以外に計数されなかった集団も存在する。耕作放棄などにより一部では増加傾向に転じている。
------	---

適用基準	定量ACD
------	-------

主な危険要因	湿地開発、自然遷移
--------	-----------

総産地数	7
現存	4
不明	1
絶滅	2

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	
東部	○

ヒメビシ

Trapa incisa Siebold et Zucc.

被子植物・双子葉類
ヒシ科

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	絶滅危惧II類
環境省(2014)	絶滅危惧II類
環境省(2007)	絶滅危惧II類

変更理由	近年の記録は、当時の標本からコオニビシの誤同定であることが確認された。少なくとも2000年代後半以降の確実な標本は得られていない。
------	---

適用基準	定性
------	----

主な危険要因	水質汚濁、自然遷移、池沼開発
--------	----------------

総産地数	6
現存	0
不明	2
絶滅	4

特記事項	コオニビシの果実がない状態や、小型の株は本種と誤認されることが多い。
------	------------------------------------

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	
東部	△

キキョウ

Platycodon grandiflorum (Jacq.) A. DC.

被子植物・双子葉類
キキョウ科

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	絶滅危惧II類
環境省(2014)	絶滅危惧II類
環境省(2007)	絶滅危惧II類

変更理由	4カ所から約150株が確認されたが、その大部分は特定生育地に存在する。管理放棄に加えて園芸採取により新たに生育が確認できなくなった地点もあった。
------	--

適用基準	定量ACD
------	-------

主な危険要因	管理放棄、草地開発、園芸採取 生育範囲内に盗掘の形跡と思われる穴が多数見つかった。
--------	--

総産地数	*12
現存	4
不明	5
絶滅	3

特記事項	30年以上前の確認・標本採集地点は総産地数から除外した。
------	------------------------------

県内の分布状況	
利根	×
吾妻	○
中部	△
西部	○
東部	△

カキラン

Epipactis thunbergii A. Gray

被子植物・単子葉類
ラン科

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	絶滅危惧II類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	7カ所で生育が確認されたが、厳重な監視が行われている生育地を除いて大幅に減少し、生育株数1桁の場所がほとんどである。中には90%以上採り尽くされた場所もある。
------	---

適用基準	定量ACD
------	-------

主な危険要因	園芸採取 厳重な監視が行われている場所を除いて、盗掘による穴がみられる。
--------	---

総産地数	19
現存	7
不明	4
絶滅	8

特記事項	生育環境が残されている場所であっても数年のうちに激減する事態が相次いでいる。また、尾瀬ではニホンジカによる攪乱の影響もあるかもしれない。激減の理由がはっきりし、今なお継続していることから、採集を禁止する以外に株数を維持する方法はないと考えられる。
------	---

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	△
中部	○
西部	○
東部	×

アオヒメタデ

被子植物・双子葉類
タデ科

Persicaria erectominor (Makino) Nakai var. *erectominor* f. *viridiflora* (Nakai) I.Ito

今回評価	絶滅危惧IB類
群馬県(2012)	絶滅危惧Ⅱ類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	3地点で確認され、ほかの1地点でも現存する可能性が高い。分布範囲は同属の絶滅危惧種の中では広いが、圃場整備や河川工事によりすでに失われた産地も多い。
------	--

適用基準	定量ACD
------	-------

主な危険要因	河川開発、池沼開発、外来種競合・交雑
--------	--------------------

総産地数	5
現存	3
不明	1
絶滅	1

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	×
西部	
東部	○

スグリ

被子植物・双子葉類
ユキノシタ科

Ribes sinanense F. Maek.

今回評価	絶滅危惧IB類
群馬県(2012)	絶滅危惧Ⅱ類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	10力所から150株近くが確認され、現存株数は数100株と推定される。一方で主要分布域において、深刻なニホンジカ食害のため衰退傾向にある。
------	---

適用基準	定量ACD
------	-------

主な危険要因	動物食害、その他(植林) ニホンジカの嗜好性が高い。全体が食い尽くされることは少ないが、矮性化して開花できない株が多い。
--------	---

総産地数	11
現存	10
不明	1
絶滅	0

特記事項	西部地域における現地調査の結果、食害が深刻で、今後の株の更新に支障があることを考慮し、ランクを修正した。
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	○
中部	
西部	○
東部	

コウリンカ

被子植物・双子葉類
キク科

Senecio flammeus Turcz.ex DC. subsp. *glabrifolius* (Cufod.) Kitam.

今回評価	絶滅危惧IB類
群馬県(2012)	絶滅危惧Ⅱ類
環境省(2014)	絶滅危惧Ⅱ類
環境省(2007)	絶滅危惧Ⅱ類

変更理由	5力所で700株が確認された。一方で管理放棄により近年生育が確認できなくなった地点も多い。
------	---

適用基準	定量
------	----

主な危険要因	管理放棄、草地開発、動物食害
--------	----------------

総産地数	27
現存	5
不明	10
絶滅	12

特記事項	近年は生育地により維持と衰退・絶滅の差が激しい。草地性の種の中でも比較的背丈が低く、遷移進行の影響を受けやすいと推定される。また、一部生育地ではニホンジカの食害を受けている可能性がある。
------	---

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	○
中部	×
西部	○
東部	×

ナガエミクリ

Sparganium japonicum Rothert

被子植物・単子葉類
ミクリ科

今回評価	絶滅危惧IB類
群馬県(2012)	絶滅危惧Ⅱ類
環境省(2014)	準絶滅危惧
環境省(2007)	準絶滅危惧

変更理由	大規模な集団が1流域に存在し、他に生育情報がある河川が1つ存在する。一方、3地点で絶滅した。大集団が存在する河川にも侵略的外来種が侵入している。
------	--

適用基準	定量C
------	-----

主な危険要因	河川開発、池沼開発、外来種競合・交雑 大規模な集団のある河川にはオオカワヂシャやオーストラリアセキショウモが侵入している。
--------	--

総産地数	5
現存	1
不明	1
絶滅	3

特記事項	太陽光発電に伴う池沼改変や溜池の放棄により東部地域以外からはほぼ消失した。
------	---------------------------------------

県内の分布状況	
利根	
吾妻	△
中部	
西部	×
東部	○

ノテンツキ

Fimbristylis complanata (Retz.) Link

被子植物・単子葉類
カヤツリグサ科

今回評価	絶滅危惧IB類
群馬県(2012)	絶滅危惧Ⅱ類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	西部地域に400株以上が生育し、生育状況も安定しているが、東部地域での減少が著しく、全県でも2カ所のみで生育が確認できる状態である。
------	--

適用基準	定量
------	----

主な危険要因	湿地開発、土地造成、管理放棄
--------	----------------

総産地数	7
現存	2
不明	4
絶滅	1

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	△
中部	△
西部	○
東部	○

グンナイキンポウゲ

Ranunculus grandis Honda var. *mirissimus* (Hisauti) H. Hara

被子植物・双子葉類
キンポウゲ科

今回評価	準絶滅危惧
群馬県(2012)	絶滅危惧Ⅱ類
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	分布域は狭いが、総数は4500株以上と見積もられる。道路や歩道に沿って分布拡大傾向にある。ニホンジカによる食害も確認されず、目立った減少は確認できなかった。
------	--

適用基準	定量
------	----

主な危険要因	踏みつけ、土地造成
--------	-----------

総産地数	3
現存	3
不明	0
絶滅	0

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	
中部	
西部	
東部	

ヒメタデ

被子植物・双子葉類
タデ科

Persicaria erectominor (Makino) Nakai var. *erectominor*

今回評価	情報不足
群馬県(2012)	絶滅危惧Ⅱ類
環境省(2014)	絶滅危惧Ⅱ類
環境省(2007)	絶滅危惧Ⅱ類

変更理由	2012年レッドデータブックの調査票9地点のうち7地点がイヌタデなどの誤同定と判断されたため、データを抹消した。残る2地点では現存は確認されていない。
------	---

適用基準	定性
------	----

主な危険要因	池沼開発、土地造成
--------	-----------

総産地数	2
現存	0
不明	2
絶滅	0

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	
東部	△

フサモ

被子植物・双子葉類
アリノトウグサ科

Myriophyllum verticillatum L.

今回評価	絶滅危惧IB類
群馬県(2012)	準絶滅危惧
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	東部地域からはほぼ絶滅した。北部地域に900株が現存すると見積もられるが、主に殖芽で繁殖するため、遺伝的多様性は低いと判断される。
------	---

適用基準	定量C
------	-----

主な危険要因	農薬汚染、河川開発、動物食害
--------	----------------

総産地数	7
現存	3
不明	2
絶滅	2

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	
中部	
西部	
東部	△

ミヤマジュズゲ

被子植物・単子葉類
カヤツリグサ科

Carex dissitiflora Franch.

今回評価	除外
群馬県(2012)	準絶滅危惧
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	10カ所以上に3500株が確認され、ニホンジカの忌避によって増加中の生育地が多い。また、大半の生育地は国立公園内で、絶滅のおそれの増大は確認されない。
------	---

適用基準	定量
------	----

主な危険要因	
--------	--

総産地数	14
現存	13
不明	1
絶滅	0

特記事項	尾瀬と周辺域での分布拡大と株数の増加が顕著である。
------	---------------------------

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	○
中部	
西部	
東部	○

ウゼントリカブト

被子植物・双子葉類
キンポウゲ科

Aconitum okuyamae Nakai var. *okuyamae*

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県(2012)	情報不足
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	2016年に過去に標本が採集された町域内で現存が確認された。現在確認されている生育地は1地点のみであるが、個体群は大規模で、生育株数は多い。
------	--

適用基準	定量C
------	-----

主な危険要因	分布限界、その他(道路工事) 道路の改良工事が行われると、個体群に影響が及ぶ危険性が高い。
--------	--

総産地数	1
現存	1
不明	0
絶滅	0

特記事項	ニホンジカが忌避するため増加傾向にあり、自生地の林床は本種が群生している。
------	---------------------------------------

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	
中部	
西部	
東部	

キタノミヤマシダ

シダ植物
メシダ(イワデンダ)科

Diplazium sibiricum (Turcz. ex Kunze) Sa. Kurata var. *sibiricum*

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	情報不足
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	西部地域の2地点で確認できた。株数が極めて少ない上にニホンジカによる食害のために衰退傾向にあると判断される。
------	--

適用基準	定量ACD
------	-------

主な危険要因	動物食害 生育地周辺はニホンジカの食害によって林床の種組成が大きく変化している。
--------	---

総産地数	3
現存	2
不明	1
絶滅	0

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	△
吾妻	
中部	
西部	○
東部	

シソクサ

被子植物・双子葉類
ゴマノハグサ科

Limnophila chinensis (Osbeck) Merr. subsp. *aromatica* (Lam.) T. Yamaz.

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	情報不足
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	今回生育情報は得られなかった。標本は残っており、本県に生育していたことは確実である。シードバンクからの復活の可能性も残されている。
------	---

適用基準	定性
------	----

主な危険要因	湿地開発、池沼開発
--------	-----------

総産地数	2
現存	0
不明	1
絶滅	1

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	
東部	△

ウシクサ

被子植物・単子葉類
イネ科

Schizachyrium brevifolium (Sw.) Nees ex Büse

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	情報不足
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	2012年以降1地点で生育が確認された。湿潤な裸地的環境に依存し、遷移進行や外来雑草の侵入により衰退する可能性が高い。
------	---

適用基準	定量ACD
------	-------

主な危険要因	土地造成、外来種競合・交雑、自然遷移
--------	--------------------

総産地数	12
現存	1
不明	0
絶滅	10

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	○
西部	×
東部	×

タチスゲ

被子植物・単子葉類
カヤツリグサ科

Carex maculata Boott

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	情報不足
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	過去の標本をもとに現地調査を行った結果、1カ所から2集団20株が確認できた。1集団では安定しているが、他方の集団は管理放棄により森林化が進み絶滅寸前である。
------	--

適用基準	定量ACD
------	-------

主な危険要因	管理放棄、池沼開発
--------	-----------

総産地数	1
現存	1
不明	0
絶滅	0

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	
東部	○

コシンジュガヤ

被子植物・単子葉類
カヤツリグサ科

Scleria parvula Steud.

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	情報不足
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	1地点で埋土種子集団から復活した。しかし、株数は少なく、遷移進行とともに再び消失するおそれがある。
------	---

適用基準	定量C
------	-----

主な危険要因	自然遷移、湿地開発
--------	-----------

総産地数	1
現存	1
不明	0
絶滅	0

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	
東部	○

ユウシュンラン

被子植物・単子葉類
ラン科

Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume var. *subaphylla* (Miyabe et Kudô) Ohwi

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	情報不足
環境省(2014)	絶滅危惧II類
環境省(2007)	絶滅危惧II類

変更理由	1地点にごく少数の株が発見された。踏みつけや園芸採取が危惧される。
------	-----------------------------------

適用基準	定量D
------	-----

主な危険要因	園芸採取、踏みつけ、自然遷移
--------	----------------

総産地数	3
現存	1
不明	2
絶滅	0

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	△
西部	○
東部	

キバナノショウキラン

被子植物・単子葉類
ラン科

Yuania amagiensis Nakai et F. Maek.

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2012)	情報不足
環境省(2014)	絶滅危惧IB類
環境省(2007)	絶滅危惧IB類

変更理由	近年、過去に記録がある地点以外で採集されている。これらの地域に生育することは確実だが、分布密度は極めて低いと考えられる。
------	--

適用基準	定量D
------	-----

主な危険要因	特殊分布、自然遷移
--------	-----------

総産地数	3
現存	1
不明	2
絶滅	0

特記事項	菌類に依存して生活するランで、緑葉をもたないため発見が難しい。
------	---------------------------------

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	
東部	○

ミヤマハタザオ

被子植物・双子葉類
アブラナ科

Arabidopsis lyrata (L.) O'Kane et Al-Shehbaz subsp. *kamchatica* (Fisch. ex DC.) O'Kane et Al-Shehbaz

今回評価	絶滅危惧IB類
群馬県(2012)	情報不足
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	過去に記録がある地点以外の2カ所で生育が確認された。園芸採取や開発の心配はないが、不安定立地に依存する種のため、生育基盤は脆弱であると考えられる。
------	---

適用基準	定量D
------	-----

主な危険要因	外来種競合・交雑、自然遷移、その他(岩石風化)
--------	-------------------------

総産地数	4
現存	2
不明	1
絶滅	1

特記事項	危険箇所や火山活動の影響がある場所を主な生育立地とするため、正確な絶滅のおそれの評価は難しい。高山植物の中では地味な種であるため、盗掘リスクは低いと考えられる。
------	--

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	○
中部	
西部	
東部	

ヤマハリソウ

被子植物・双子葉類
ムラサキ科

Omphalodes japonica (Thunb.) Maxim. var. *japonica*

今回評価	絶滅危惧IB類
群馬県(2012)	情報不足
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	同一市内の5カ所から200株以上の生育が確認された。ただし、分布域が非常に限られる上に、攪乱に依存する性格があるため、生育基盤が不安定である。
------	---

適用基準	定量ACD
------	-------

主な危険要因	管理放棄、その他(植林)
--------	--------------

総産地数	7
現存	5
不明	1
絶滅	1

特記事項	分布域は非常に狭くしかも人間活動が及ぶ範囲にある。ニホンジカやイノシシはむしろ本種を忌避する傾向がある。
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	△
中部	
西部	
東部	○

ヒメガヤツリ

被子植物・単子葉類
カヤツリグサ科

Cyperus tenuispica Steud.

今回評価	絶滅危惧IB類
群馬県(2012)	情報不足
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	確認された生育地点は1地点のみだが、300株以上が生育している。人為的な管理に依存する溜池に生育するため、生育基盤は脆弱と考えられる。
------	---

適用基準	定量C
------	-----

主な危険要因	外来種競合・交雑、池沼開発、自然遷移
--------	--------------------

総産地数	1
現存	1
不明	0
絶滅	0

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	○
西部	
東部	

セイタカハリイ

被子植物・単子葉類
カヤツリグサ科

Eleocharis attenuata (Franch. et Sav.) Palla

今回評価	絶滅危惧IB類
群馬県(2012)	情報不足
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	3カ所から70集団が確認された。群生する地点もある。一方で遷移によって衰退しやすい性質がある。また、生育地のうち1地点では堰堤改修工事の予定がある
------	---

適用基準	定量D
------	-----

主な危険要因	池沼開発、管理放棄、農業汚染
--------	----------------

総産地数	4
現存	3
不明	1
絶滅	0

特記事項	丘陵地や平野部の農村部に分布が限られるため、改修工事や管理放棄の影響を受けやすい。また、類似種との区別が難しいことも、減少種であるという認識をもちづらい原因となっているかもしれない。
------	---

県内の分布状況	
利根	
吾妻	
中部	
西部	○
東部	○

ミヤマクマザサ

Sasa hayatae Makino

被子植物・単子葉類
イネ科

今回評価	準絶滅危惧
群馬県(2012)	情報不足
環境省(2014)	指定なし
環境省(2007)	指定なし

変更理由	本県産の標本をもとに現地調査を行った結果、大規模な集団が確認できた。一方で道路拡幅工事が危惧される。その後発見された別集団は小規模だが安定している。
------	--

適用基準	定性
------	----

主な危険要因	その他(道路工事)、森林伐採
--------	----------------

総産地数	2
現存	2
不明	0
絶滅	0

特記事項	
------	--

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	○
中部	
西部	
東部	